

# 町医者だより

平成20年12月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

## ARBについて

ARBという言葉をご存じですか？アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬、Angiotensin II Receptor Blockerの頭文字を取った略語です。高血圧治療薬のグループの一つです。現在の高血圧治療で「最初に選択すべき」薬剤とまで言われるようになったARBの話です。

## ARBに属する薬は？

ディオバン、オルメテック、ニューロタン、ミカルディス、プロプレス、アバプロ（イルベタン）などが日本で使われているARBです。

## なぜARBを選択すべきか

ARBはアンギオテンシンⅡ受容体に結合してその効果を発揮しますが、その受容体は2種類あります。1型受容体は主に血管の平滑筋に分布し、その受容体に薬剤が結合する事で平滑筋の収縮を抑え血圧が下がります。この1型受容体がARBでブロックされると、内在性のアンギオテンシンが2型受容体に結合するようになります。2型受容体を刺激すると血管の炎症や血栓形成や平滑筋増殖を抑えるなどして血管の病気を防いでくれます。この血管を守る作用が心臓や腎臓など血流が豊富な臓器を保護し心不全や腎不全などの発症を防いでくれることが明らかになりました。この「臓器保護作用」は現在のところARBとアンギオテンシン変換酵素阻害剤（ACE阻害剤）だけです。なお、ARBはACE阻害剤の欠点を改良したものです。以前はカルシウム拮抗薬やβブロッカーなどで血圧が下がりさえすれば良いといわれた時代もありましたが、ここ4-5年大規模な研究結果が次々と発表され高血圧治療指針が改訂されています。循環器専門医にいたっては、血圧が高くなくても臓器保護を目的にARBやACE阻害剤を処方することもあるほどです。

## 高血圧治療の注意点

### ①家庭血圧を重視

自宅で測る血圧が大事です。特に起床時の血圧が重要視されています。起床時30分以内の血圧を測定し記録して、かかりつけ医に相談してください。

### ②目標血圧まで下がっている方が少ない

世界的により低く目に設定される傾向にあります。来年わが国の高血圧治療ガイドラインが改定される予定ですが、若者や中年の目標家庭血圧は125/80未満になるようです。せっかく血圧の薬を飲んでいても目標血圧まで下がっていなければ意味がありません。

### ③75歳以上の方も治療が必要です

医者でも勘違いされている方もおられるようですが、治療によって脳血管障害や心臓病のリスクを減らす事ができるため積極的な治療を求められています。なお、75歳以上の方で家庭血圧目標値は135/85未満です。